



地域脱炭素フォーラム2025 in 福岡
【パネルディスカッション①】
地域特性を踏まえたゼロカーボンシティ
への挑戦

Kitakyushu
Action!

動かせ、未来。北九州市

北九州市のゼロカーボンシティ に向けた取組

令和7年6月15日
北九州市



公害克服から国際的環境先進都市へと飛躍

時代の最前線で常に新しいことに挑戦し、多くの困難を乗り越えてきたドラマの豊富なまち



1901
官営八幡製鐵所



1920
東洋陶器



1925 安川電機製作所
1963 北九州市発足



2001
北九州博覧祭



2006
新・北九州空港開港



2011
・環境未来都市に選定
・OECDグリーン成長都市にアジアで初選定

2022
脱炭素先行地域に選定

『ものづくりのまち』として日本の高度成長期をけん引
工業地帯へ

当時、世界で類を見ない五市対等合併により、九州初の
『百万都市』、『政令指定都市』として、北九州市が誕生

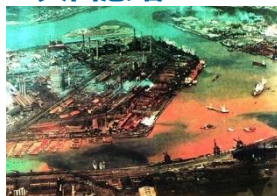
1900～

1950～

2000～

新たなドラマ
のスタート

●人口急増



▼激甚な公害が発生
「七色の煙」や「死の海」

▼「オイルショック後の鉄冷え」

▼グローバル
500 受賞
公害を
克服

●エコタウンプロジェクト
【環境産業】

- 学術研究都市【新産業】
(自動車・半導体等)
- 洋上風力発電【環境産業】

北九州市のゼロカーボンシティに向けた歩み

- 1990年 : **グローバル500賞 受賞**
- 1997年 : **北九州エコタウン事業**
- 2001年 : **ジャパンエキスポ 北九州博覧祭2001**
- 2008年 : 環境モデル都市、2018年 : SDGs未来都市 選定
- 2020年10月 : **2050年ゼロカーボンシティ宣言**
- 2021年6月 : **気候非常事態宣言**
- 2021年8月 : 「**北九州市地球温暖化対策実行計画**」改定
2030年度までに温室効果ガス**47%以上**削減（2013年度比）
- 2022年2月 : 「**北九州市グリーン成長戦略**」策定
- 2022年4月 : 「**脱炭素先行地域**」 選定

北九州市における脱炭素先行地域の取組み概要

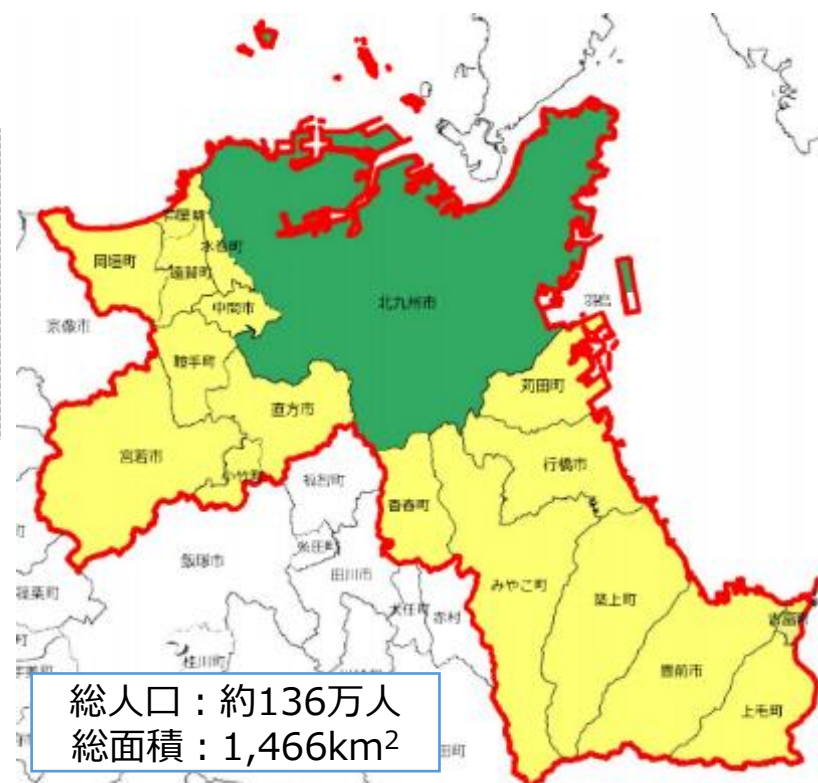
公共施設群等における再エネ最大導入・最適運用モデルと 横展開による地域産業の競争力強化

提案者 : 北九州市

共同提案者 : 直方市、行橋市、豊前市、中間市、宮若市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町、小竹町、鞍手町、香春町、苅田町、みやこ町、吉富町、上毛町、築上町

脱炭素先行地域の対象

- 北九州都市圏域18市町の公共施設群
(約3,600施設)
- 北九州エコタウンのリサイクル企業群



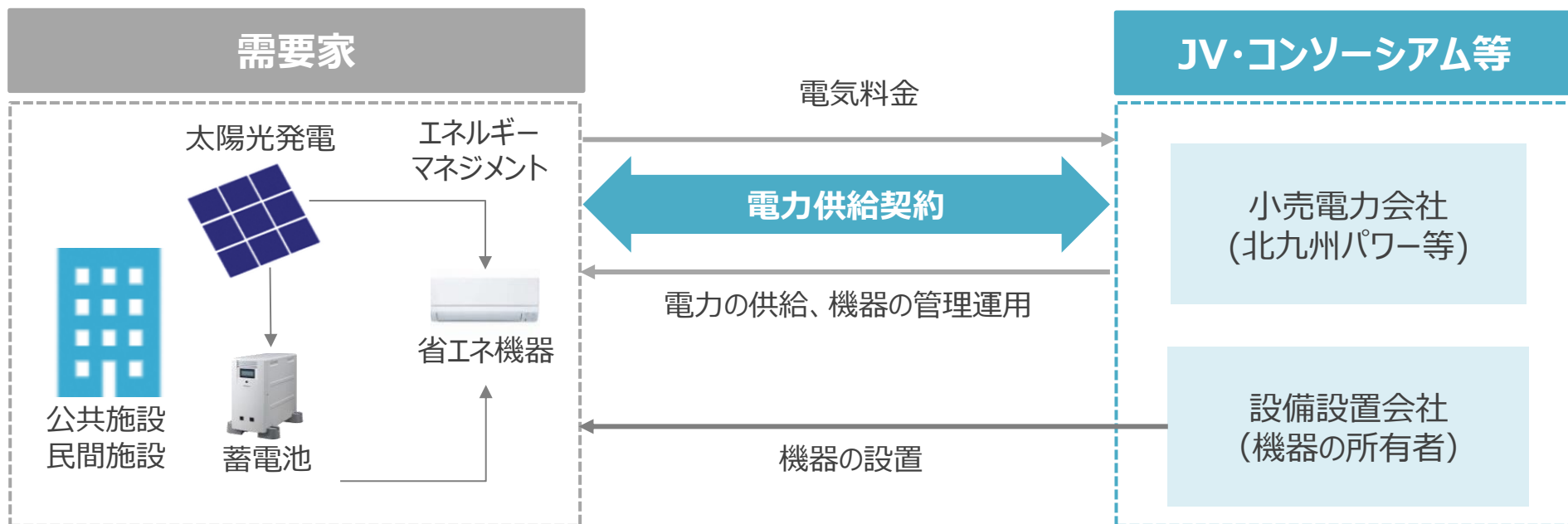
第3者所有方式による太陽光発電設備等の導入

初期投資ゼロ

導入スピードUP

IoTによる長寿命化で
トータルコスト削減

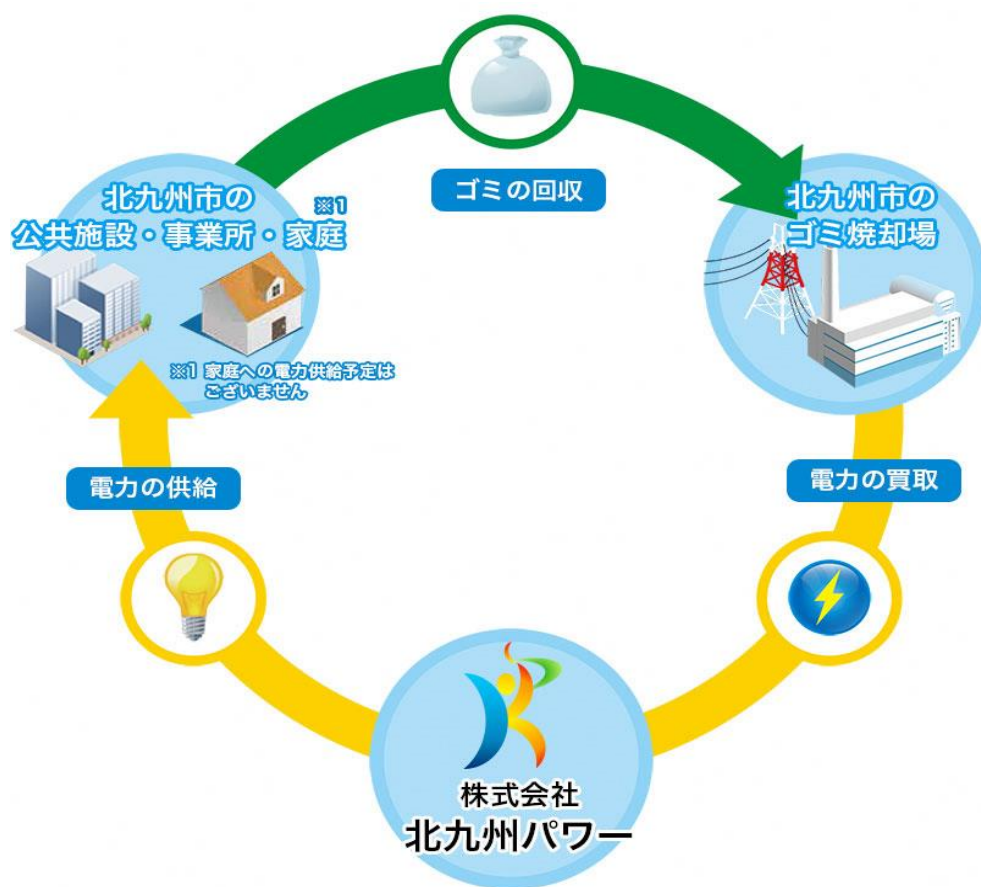
第3者所有方式のイメージ図



第3者所有方式のサービス費用は電気料金に含めて支払い

地域新電力（株）北九州パワー）による再エネの地産地消

北九州市内のごみ焼却場で発電されたクリーンな電気を市内の需要家へ供給することで再エネの地産地消を目指す



(株)北九州パワー(地域新電力)

※北九州市唯一の自治体新電力
として2015年12月に設立



- 設立 2015年12月
- 資本金 9,920万円
- 主な事業 電力の小売 及び
エネルギーマネジメントサービス

北九州都市圏域及び中小企業への普及

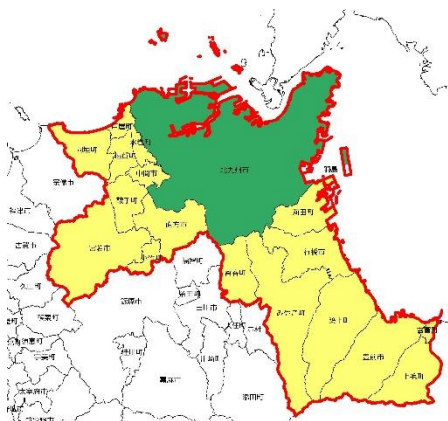
「脱炭素先行地域」に基づく取組

太陽光発電・蓄電池の
第3者所有モデル構築

北九州市公共施設
約290箇所を導入検討

北九州都市圏域（周辺17市町）

中小企業等



直方市、行橋市、
豊前市、中間市、宮若市、
芦屋町、水巻町、岡垣町、
遠賀町、小竹町、鞍手町、
香春町、苅田町、みやこ町、
吉富町、上毛町、築上町

脱炭素化

×

生産性向上
(DX、ロボット化)

広域連携による再エネ導入拡大
出力抑制の低減への貢献

脱炭素化による競争力強化

脱炭素先行地域の取組み成果（2022年～2025年3月）

太陽光 発電

<公共施設>

80施設（計2,862kW）

<民間企業（エコタウン）>

2施設（487kW） 計82施設



蓄電池

<公共施設>

68施設（計1087.2kWh）

<民間企業（エコタウン）>

2施設（25kWh） 計70施設



空調

<公共施設>

84施設

太陽光発電設備導入に向けた課題及び改善・克服

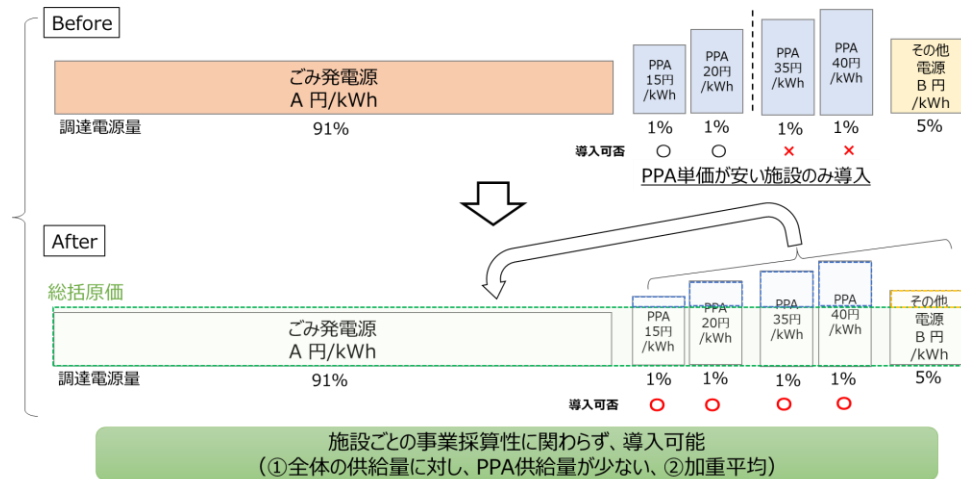
課題

規模の小さい施設等は事業採算性が悪く、単独での第3者所有方式の導入が困難

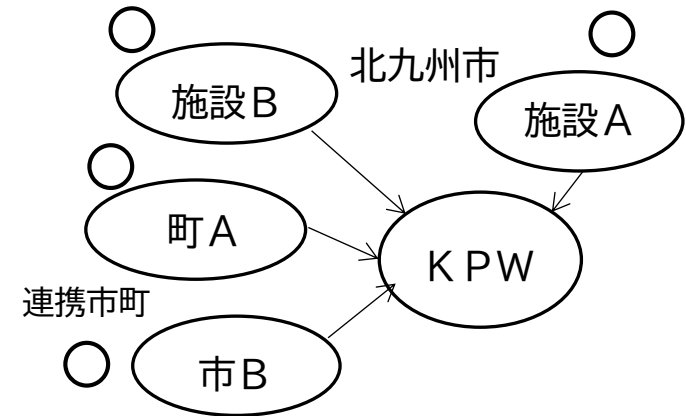
改善・克服

需要家の電気料金は、安価な廃棄物発電を背景とした単価の加重平均による

総括原価方式



北九州市+連携都市圏グルーピング公募 (新手法活用)



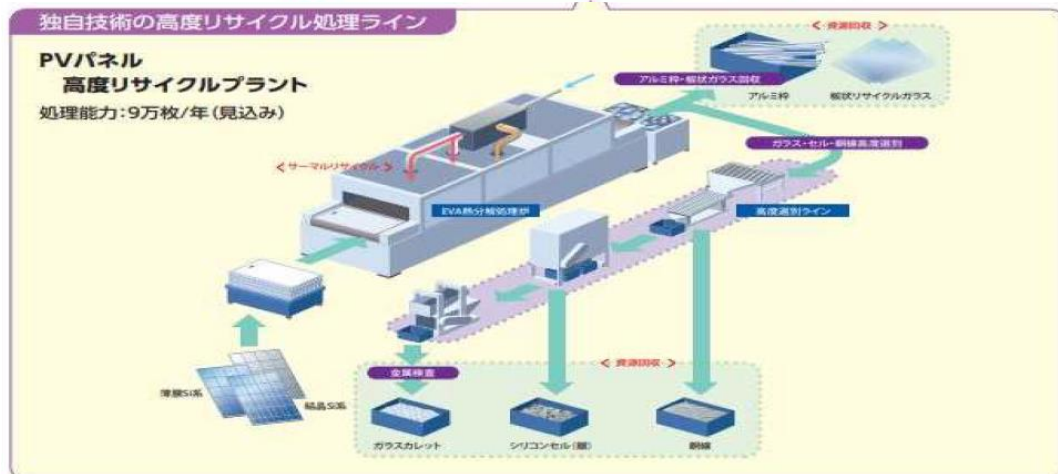
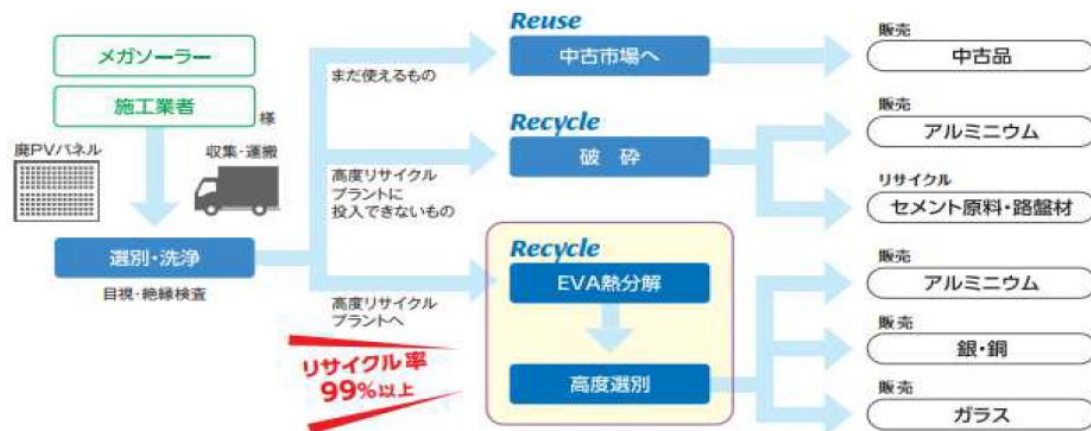
入札参加促進

事業者の応札価格の高止まり防止

第3者所有方式による
太陽光発電設備の導入加速

太陽光パネルのリサイクル事業

事業主体：(株)リサイクルテック
操業開始：2023年10月操業開始



低炭素化社会に大きく貢献

PVパネルをリサイクルすることで、
太陽光発電はさらにCO₂削減を実現できます。



風力発電関連産業の総合拠点化

- 4つの拠点機能を備えた総合拠点を形成
- 2020年9月、港湾法に基づく洋上風力の基地港湾として、西日本唯一の指定
- 港湾区域のほか、一般海域において、再エネ海域利用法に基づく促進区域への指定に向けて県と連携



北九州市における水素拠点形成の取組

- 水素等の利活用により、鉄鋼、化学、発電等の電化が困難な産業部門の脱炭素化を目指す
- 産官学連携で響灘臨海部を中心とした水素等商用サプライチェーン構築を検討し、水素拠点形成に向けた取組を推進する

響灘臨海部のポテンシャル



多様な需要

鉄鋼、化学、発電等、脱炭素化が困難な分野を含む多様な水素需要

需要の集積

響灘臨海部を中心に半径10～15km圏内に水素需要が集積

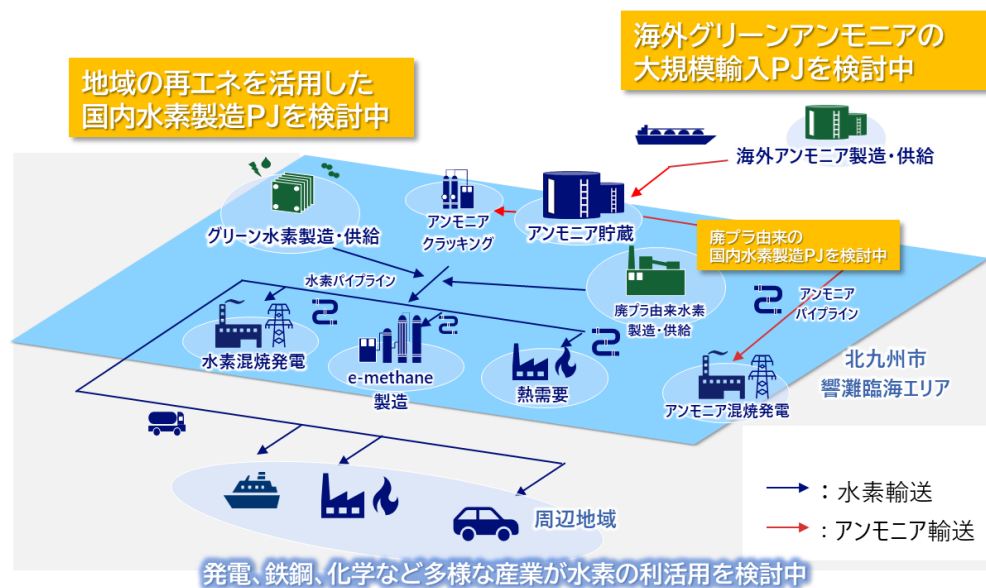
グリーン水素製造

地域に集積する豊富な再生可能エネルギーを活用したグリーン水素製造

水素輸入

広大な埋立地と豊富な港湾インフラを活用した水素輸入

サプライチェーン構築イメージ



国内製造と輸入による
供給事業の検討

伊藤忠商事、九州電力
日本コークス工業
オリックス、ENEOS、三井住友信託銀行

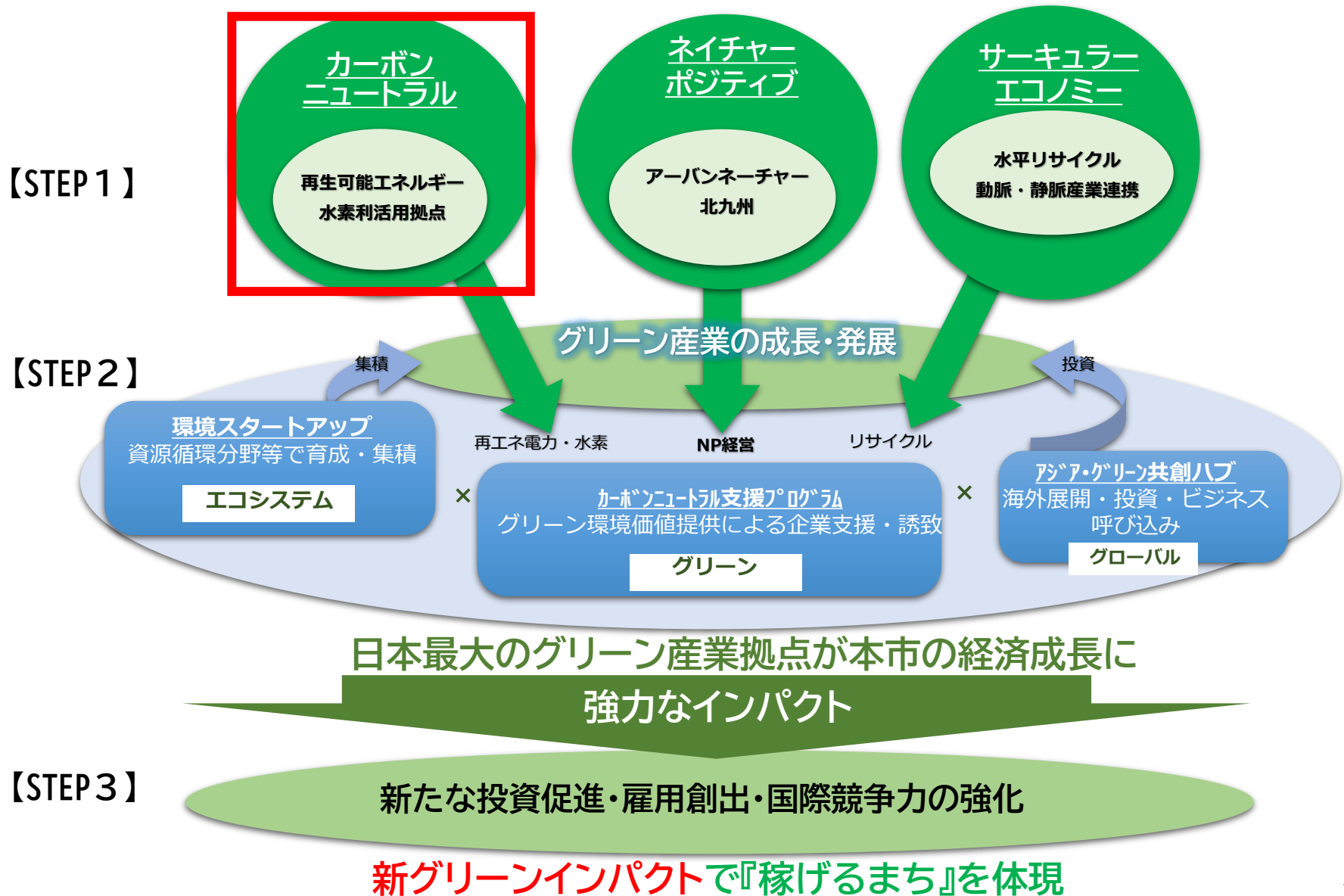
水素混焼発電など
水素等大規模利用の検討

日本製鉄、九州電力、西部ガス

パイプラインなど
供給インフラ整備の検討

西部ガス、日鉄エンジニアリング、
日本コークス工業

世界をリードするサステナブルシティを目指して



参 考 資 料

ネイチャーポジティブの取組み

大都市に近接した豊富な自然が存在

- 北九州市の自然の魅力を『**アーバンネイチャー 北九州**』として広く発信
- **ネイチャーポジティブ**にも積極的に取り組む



サーキュラーエコノミーの取組み（北九州エコタウン）

**900億円が投資されてきた
日本最大級のリサイクル企業集積がある**

北九州エコタウンは日本最大級のリサイクル企業の集積



自動車リサイクル



家電リサイクル



ペットボトルリサイクル



廃木材・廃プラスチックリサイクル



二次電池リサイクル



太陽光パネルリサイクル

北九州エコタウン事業の
これまでの成果

集積企業

25社/27事業

直接
投資額

累積900億円

雇用者数

1,040人

上記以外にも、食品廃棄物、食用油、古紙、古着、携帯電話、
電子基板、建設混合廃棄物など多様なリサイクル企業が集積

※1: 令和5年10月現在 ※2: 令和5年3月現在

北九州GX推進コンソーシアム



産学官金オール北九州による 「北九州GX推進コンソーシアム」を設立。(R5.12)



↑ 設立総会(令和5年12月12日)
日本製鉄、TOTO、安川電機、ゼンリン、
九州電力、西部ガスなど..

300
社

会長	北九州市長
副会長	北九州商工会議所会頭、北九州産業学術推進機構理事長
産	北九州商工会議所、北九州中小企業団体連合会 GXの知見を持つ企業、GXを推進する企業
学	北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学、福岡大学 北九州工業高等専門学校、地球環境戦略研究機関(IGES)
官	経済産業省、環境省、福岡県、北九州市 北九州産業学術推進機構(FAIS) 【事務局】北九州市、FAIS
金	金融機関

「グリーンとテクノロジーの掛け合わせ」

「一歩先の価値観」

北九州市の強みを生かしてGX投資を呼び込む

北九州GX推進コンソーシアムの取組内容

地域企業の変革

取組4

GX推進補助金

地域企業の
GX支援

ワンストップ相談
専門家派遣

CO₂排出量測定
ツール無償提供

取組3

GX人材の育成

GXビジネススクール



取組1

最先端の研究開発
・社会実装

テーマ別研究部会



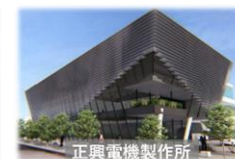
北九州市立大学
Green LPG実証

取組2

GX関連産業集積



太陽日酸株式会社



正興電機製作所

研究開発・産業集積の加速

GXによる
北九州市
の成長

GXによる北九州市の成長に向けた取組みを展開